



国土交通省  
中部地方整備局長  
梅山 和成

# 新年挨拶

平成25年の年頭にあたり、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

日本道路建設業協会の皆様におかれましては、平素より国土交通行政の推進に格別のご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、九州北部豪雨や台風4号、17号による中部直撃、南海トラフ巨大地震の被害想定公表など、改めて大規模災害の脅威を認識させられました。他方、わが国の新たな大動脈として新東名が一気に162km開通し、防災・観光・交流など、多様な面で大きなインパクトを得ることができました。また、ぎふ清流国体・ぎふ清流大会では、参加者が約100万人に迫り、最高のおもてなしのもとで、多くの交流が生まれるなどの大成功を収めた大会となりました。

これらを踏まえ、中部地方整備局では、社会資本整備を通じて、地域の安全安心を確保するための「ディフェンス」力と地域の持続的発展を支えるための「オフense」力の充実を図るため、次の3つの柱を重点的に取り組みを展開していきたいと考えております。

## 一点目は、「災害に強い地域づくり」です。

差し迫る南海トラフ巨大地震や頻発する大規模水害に備えるため、公共施設の耐震化や予防的治水対策、土砂災害対策など、これまで進めてきた重要施策に加え、122機関が連携する、「東海・東南海・南海地震対策中部圏戦略会議」が策定した、「中部圏地震防災基本戦略」を推進していくこととしています。基幹的防災拠点等の配置計画、道路・港湾の啓開オペレーション計画、市町村の津波防災まちづくり推進計画に資するガイドラインなどの優先的に取り組む連携課題の具体化を図るとともに、定期的にフォローアップしていくこととしております。

## 二点目は、「持続可能で活力ある国土・地域づくり」です。

日本のエンジン「ものづくり中部」を持続的・発展的に支える、陸海空の社会資本整備について、叡智を結集し、戦略的に推進していく必要があります。具体的には、ミッシングリンクの解消等による信頼性の高い道路ネットワークの整備、港湾の国際化対応、公共施設の長寿命化対応、新東名やリニア中央新幹線などの大規模プロジェクトを見据えたまちづくり、再生エネルギー導入に向けた支援などを中心に、ハードとソフトを総動員し、一層の充実・強化に向けた取り組みを進めてまいります。

## 三点目は、「建設産業の再生と発展」です。

地域を支え得る足腰の強い建設産業の構築が必要と認識しています。また、建設分野の社会的理解度の向上は、今や、産官学の共通課題とされています。災害対応をはじめとする建設分野の任務に関する情報発信の充実・強化について、コンテンツ、ツール、タイミング等の観点から、より良い方法を選択・実行できるよう、全力をあげて取り組むこととしています。

さて、今年は、第62回神宮式年遷宮の年でございます。「式年遷宮」は、1300年の歴史を有し、20年に一度の大イベントです。このようなイベントも含め、地域の皆様とともに、中部地方を盛り上げることにお役に立てればと思っております。

いずれに致しましても、国民の皆様のお安全安心の確保と、地域の持続的発展に資する取り組みを推進していくためには、国の機関はもとより、地元自治体、経済界、学界、民間企業の皆様、とりわけ、地域を支える建設産業界の皆様との連携・協力が不可欠です。重ねて、ご支援とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、今年の干支、「巳＝蛇」は、知恵、財産の象徴ともされております。日本道路建設業協会の皆様にとって、幸多き年でありますことを心より祈念し、年頭のご挨拶といたします。

